



## D3 2011 Retro F-1 Regulations

### D3 1/24 レトロ F-1 レーシングクラスルール

#### 1. クラスの主旨

このクラスの主旨は、新規及び熟練したレーサー及びビルダーにスケール感があり、コストのかからない、1960年代半ばのスロットカーレーシングの黄金時代の精神に基づいた、スクラッチビルトのスロットカーのクラスを提供することである。

#### 2. サイズ規定

2a. シャーシ最大幅（フロント及びリアアクスルの位置で） 3.25 インチ (82.55mm)

2b. リアタイヤ最大幅 0.810 インチ (20.574mm)

2c. リアタイヤ最小径 0.8125(13/16)インチ (20.6375mm)

2d. フロントタイヤ最小幅 0.225 インチ (5.715mm)

2e. フロントタイヤ最小径 0.750(3/4)インチ (19.05mm)

2f. 最低地上高 0.050 インチ(リアアクスル下、ギア最下面より)

0.040 インチ(1.016mm)(モーターブラケット面のモーターキャン下部)

0.015 インチ(0.381mm)(シャーシ最下部、シャーシ最前部)

上記最低地上高は、平面の車検台(テックブロック)上で、4輪を接地させ、ガイド無しの状態ですべて計測するものとする。

2g. シャーシの最大幅は次の 2h で定めるフロントアクスルキャリアを除き、1.375 (1 3/8)インチ (34.925mm)とする。

2h. 上方から見た時に、フロントアクスルキャリア及びサスペンションのシャーシとの接合部分の最大幅は 0.75 インチ(19.05mm)、フロントホイールとの接合部分の最大幅は 0.25 インチ(6.35mm)とする。真鍮板及びピアノ線等で制作されたサスペンションアーム類は、上記の範囲内からはみ出してはならない。フロントハブキャリアにラジアスロッド等を取り付けることは出来るがシャーシとの接合部分は、フロントアクスルの前後 1.5 インチ(38.1mm)を超えてはならない。

2i. シャーシの後端は、リアアクスルのセンターラインから 1 インチ(25.4mm)を超えてはならない。

### 3. シャーシの構造

3a. シャーシ形式：自作もしくは商業的に販売されているスクラッチビルトシャーシで以下の規定と第1条のクラスの主旨の精神に則したものに限る。

ピローブロック構造(個別の金属板アクスルホルダーが、どんな形式であれ、金属板のカットされた溝に半田付けされたもの)は、絶対に禁止。

3b. シャーシの材料：真鍮製の板、棒、パイプ、鉄製は、ピアノ線、パイプ、ガイドタンクに限り使用できるものとする。

折り曲げられた一体かつ三面のリアアクスルキャリアを含むモーターブラケットを必ず使用しなければならない。

モーターは、モーターブラケットに2本以上のネジで取り付けなければならない。

ガイドタンク以外には、鉄製プレス部品及び、EDM カットもしくはレーザーカットされた如何なる金属製部品を使用してはならない。シャーシのあらゆる部分の可動の範囲は、ヒンジの動きシャーシ自体のひねりを含め、シャーシの最大幅 1.375(1 3/8)インチ(34.925mm)を超えてはならない。

3c. ドライブ形式：インラインドライブに限る。モーターのシャフトは上方から見てリアアクスルと90度の角度でなければならない。

3d. スイングアームを除き、あらゆるヒンジの可動方向は一方向に限る。

(即ち、サイドパン・ヒンジもしくはプランバーヒンジのどちらか一方に限り、同時に両方向の動きは禁止する。ヒンジをゆるくして一方向以上に動くようにしてはならない。) センターロールヒンジは禁止する。シャーシのあらゆる部分の可動の範囲は、シャーシの最大幅 1.375(1 3/8)インチ(34.925mm)を超えてはならない。

3e. フロントアクスル：一本の円形断面で最小径 0.0937(3/32)インチ(2.381mm)の一体型フロントアクスルに両前輪を取り付けなければならない。

アクスルはシャーシ本体に固定するかパイプに通すことができる。

L型アームの様にアクスルをヒンジで可動させてはならない。

フロントタイヤは個別に回転させてよい。ピローブロック式のフロントアクスル取り付けは禁止。

3f. ガイド：シャーシの中心線に一つだけしか付けてはならない。

(オフセット、サイドウェイ、フリーフロートは禁止。)

3e. シャーシに自動的に液体を噴霧するいかなる装置も取り付けはならない。

### 4. モーター規定

4a. TSR D3 及び Falcon 7 モーターに限る。キャンを開けたり、改造は禁止。

モーターはキャンにある2mmのねじ穴に2本のねじでモーターブラケットに取り付けなければならない。

モーター規定に明らかに違反した場合は、あらゆるD3競技から永久に追放されるものとする。

## 5. ボディー規定

5a. ボディースタイルは、原則として、Lancer 等の 1970 年以前のインライン用オープンホイールボディーのオリジナルもしくは完全な複製でなければならない。

ボディーは、美しく塗装され、両ボディーサイドに一つずつ、フロントに一つ、合計三つのレーシングナンバーを付けなければならない。上方から見たときに、スケール感のあるサスペンション等の装飾的パーツ及びフロントアクスルキャリア以外のいかなるシャーシ部分がボディー外に見えてはならない。

5b. D3 公認ボディーリスト(別途定める)

但し、1969 年に製造されたアングルワインダー用の Lancer 及び Dynamic のワイドボディーは禁止。

5c. いかなる空力装置(エアコントロール)もボディーに取り付けてはならない。

5d. コックピット: コックピットは、ウィンドスクリーンとボディーの自然なラインに沿って完全にオープンしていなければならない。

少なくとも 2 色に塗装された立体的で独立したドライヴァーが乗っていなければならない。

2011/03/04